

他院に問い合わせることでアレルギー歴のある薬剤投与を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬剤のアレルギー歴について問い合わせを行うことで、アレルギーのある薬剤の投与を回避し、安全な薬物療法の提供に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶肩腱板断裂に対して手術目的で入院された患者

【予定されていた術後の抗生剤】
セファゾリン Na 注射用 1g 末梢点滴注射 1 時間で投与



Aさん

持参薬確認時

これまでに薬で具合が悪くなったり、アレルギーが出たことはありますか。

B 病院で打ってもらった抗生剤の点滴で、蕁麻疹が出たことがあります。薬の名前は分かりません。

そうだったんですね。手術後に抗生剤が使われると思いますので、念のために B 病院に電話して、薬の名前を確認してもよろしいでしょうか。

いいですよ。お願いします。



患者



薬剤師

B 病院にアレルギー歴の問い合わせを行った結果、セファゾリンにアレルギーがあることが判明した。

B 病院に確認したところ、蕁麻疹が出た抗生剤はセファゾリンというお薬でした。医師にもお伝えしておきますね。お薬手帳にセファゾリンにアレルギーがあることを書いておきますので、今後はお薬手帳を見せながらアレルギーのことを伝えてくださいね。

ご丁寧にありがとうございました。分かりました。



その後担当医にセファゾリンアレルギーについて情報提供を行い、術後の抗生剤はクリンダマイシンに変更され、経過問題なく退院となった。

患者に同意を取って薬剤のアレルギー歴を他院に問い合わせることで、アレルギーのある薬剤の投与を回避し、安全な薬物療法の提供に寄与できた。